

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月29日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 生徒の主体的に学ぶ意欲を引き出し確かな学力を育みながら、新たな学力の育成や評価についても研究を進める。</p> <p>② 2022年度生から実施される新指導要領と新校統合再編への移行期に向けてカリキュラムの研究・編成を進める。</p>	<p>① 授業改善を継続して進めるとともに、ICT等の様々な自宅学習ツールを活用した主体的で新しい学習スタイルの運用とその評価について研究する。</p> <p>② 厚木東スタンダードをふまえ、新校のコンセプトも意識しながらカリキュラムの最終案をとりまとめる。</p>	<p>① Google Classroomをはじめとする様々な自宅学習ツールの校内での活用事例を集め、その成果を評価する。</p> <p>② カリキュラム検討委員会を招集し、新校のコンセプトも盛り込みながら協議を進める。</p>	<p>① 生徒は新しい時代の学習ツールをどのくらい活用できたか。各教科での具体的な取組と学習効果は検証できたか。</p> <p>② カリキュラム検討委員会を計画的に実施し、カリキュラムに新校のコンセプトを反映できたか。</p>	<p>① 約7割の生徒がGoogle Classroomを用いたオンライン課題を十分に活用できたが約3割程度の生徒に不満が残った。教員側はGoogle Classroomの利用を100%達成し、その活用をテーマに校内研修を実行した。</p> <p>② カリキュラム検討委員会を計画的に実施した。厚木東スタンダードを踏まえながら新カリキュラムの編成を進め、編成案の作成を達成した。</p>	<p>① 平常授業においても活用できるICT教材の開発に授業研究会を通じて組織的に取り組む。広報情報グループと連携しICT機器の充実と生徒の円滑な利用を進める。探究的な授業や評価への活用も研究を行う。</p> <p>② 新カリキュラムによる教育課程の完成に向けて各教科、職員間の意見調整を進める。</p>	<p>① 休校中のオンライン課題に不満を持つ生徒が3割程度いたことは課題である。しかし、突然の社会情勢変化の中、それぞれの家庭でのネットワーク環境や生徒のスキルにもバラツキがあり、ある程度やむを得なかったと評価する。今回の経験をもとに平常授業においてもICTの上手な授業活用が急務である。</p> <p>② 生徒の主体的な学習に向けて更なる改善が必要である。</p>	<p>① 休校期間中のICTを活用した学びの保障を実現した。平常の授業への活用が課題である。</p> <p>② 新カリキュラムの整備を終えた。今後は新学習指導要領の理解を深め、実践的な取組を計画する段階となる。生徒の主体的な学習に向けては課題が残った。</p>	<p>① 平時のICT活用に向けて次年度の研修を計画する。探究的な授業への活用も研究していく。</p> <p>② 新学習指導要領のコンセプトを組織的に共有し、深い学びへとつながる授業改善を進める。また、生徒の主体性を高める授業のあり方について研究を進める。</p>
2 生徒指導・支援	<p>① 部活動や生徒会行事等における生徒主体の協働的、創造的な活動を通して豊かな人間性と望ましい社会性を育む。</p> <p>② 個々の生徒に応じた組織的な支援体制を確立し、互いに認め合い高め合える安全安心な学校環境を整える。</p>	<p>① 生徒が職員と協働しながら部活動や生徒会行事に主体的に取り組めるよう、生徒会本部役員や各委員等リーダーを中心とする生徒の活動を適切に支援する。</p> <p>② 生徒の状況を学年で共有し、支援が必要な生徒について早期に把握し、SC面談やケース会議、外部機関との連携等、個々のニーズに合った支援を組織的に行っていく。</p>	<p>① 生徒会本部役員を中心に各委員長、部長の会合を定期的実施し、生徒の多様な活動を定期的に振り返り、情報を共有する。行事では生徒が目標や計画を考え、職員と協働して取り組む。</p> <p>② 欠席のめだつ生徒や気になる生徒について、学年会等で情報共有し、特に連続5日以上欠席生徒については早期に把握しSC活用やケース会議等教育相談体制のもと組織的に対応していく。</p>	<p>① 部活動や生徒会行事等の取組状況を、生徒会が積極的に取りまとめ、全校生徒へ発信できたか。行事アンケートでは主体的な取組に対する肯定的な回答が増えたか。</p> <p>② 欠席のめだつ生徒や気になる生徒について、学年会等で情報共有ができたか。支援が必要な生徒について組織的に対応したか。また、生徒のニーズに合った支援となっていたか。</p>	<p>① コロナ禍でも生徒会新聞を通して、各活動の状況を積極的に発信した。また、行事も感染防止に努め、生徒が主体的に計画を立案し、実行した。特に保健委員会は感染防止の取組みが認められ、神奈川県文化連盟より「連盟賞」を受賞した。</p> <p>② 学年からの情報をグループで共有し必要に応じてSCにつなげた。また、個々のニーズに合った支援を心掛けた。</p>	<p>① 行事アンケートの主体的な取組について、昨年度より前向きな回答をする生徒の割合が増えたが、まだ指示を待って取り組む生徒が多い。</p> <p>② SCを勧めても理解されないケースがある。担任・学年等と連携しながら経過観察・情報共有していくとともにSCの有効性を伝えていく。</p>	<p>① 生徒主体の活動が神奈川県文化連盟「連盟賞」を受賞したことは大変名誉なこと、本校の名声を一層高める一助になったことは評価に値する。</p> <p>② 表面上問題がないように見える生徒にも悩みや葛藤を抱いているケースもある。いつでも相談できる体制の確立・雰囲気作りが必要である。</p>	<p>① 保健委員の神奈川県文化連盟「連盟賞」の表彰は、主体的な取組への成果として全校生徒へ印象づけた。</p> <p>② 令和2年度からSC来校が隔週で1日来校となったことにより1日の予約数が増えた。SCにつなげたいケースについてどうアプローチしていくかが課題である。</p>	<p>① 様々な事例を挙げ、生徒が主体的に行動できるよう促していく。</p> <p>② 新入生のオリエンテーションやHR、保健だより等あらゆる機会を利用してSCの案内等を行っていく。また、支援が必要な生徒については、経過観察しながら、担任や学年と連携・協力してSCや外部機関等へつないでいく。</p>
3 進路指導・支援	<p>① 3年間を通じた体系的なキャリア教育により、早期から将来を展望した自己理解、キャリア学習を深めさせる。</p>	<p>① 体系的なキャリア教育を計画的に配置し、激変する社会と自己の将来を見据えて行動できるよう全学年の生徒の進路意識の向上を図る。</p>	<p>① キャリア教育実践プログラムを計画的に配置し、生徒が将来を見据えて主体的に行動できるようサポートする。</p>	<p>① 生徒が自己理解と進路研究を深め、自己の進路実現に向けての具体的な行動をとり、将来に向けての目標を明確に定められたか。</p>	<p>① 総合学習、探究活動、講演会、振り返り活動等、自己理解と進路実現に向けての取組を行う中で、多くの生徒が目標を定められている。具体的な行動には個人差が大きかった。</p>	<p>① 進路意識の向上は図られているようだが、具体的な行動にまで結び付けられていない生徒もいる。自分で学び考え、行動できるよう、本校生徒の課題に応じたキャリア教育活動を今後も計画、実施していく。</p>	<p>① 進路意識の向上が大切であり、安易に妥協して入れる学校ではなく、高い目標を持たせることが必要である。探究学習が具体的な進路活動に結びつかない生徒に対しては、より強く働きかける必要がある。</p>	<p>① 探究活動発表会、オンラインを通して進路意識の向上を図ることができた。具体的な行動をとることができない生徒へのアプローチが課題である。</p>	<p>① 将来のビジョンを持てるよう、様々な情報提供を行うとともに、探究活動等を通して進路について主体的に考え、どのような行動をとる必要があるのかを考えさせていく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月29日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	② 一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて、各種進路探究活動をきめ細やかに支援し、全生徒の第1志望達成を目指す。	② 進路に向けての探究活動を支援し、自己にあった入試方法を選択させ、生徒の第1志望が達成できるようサポートする。	② 教員も新たな入試方法や個々の学校などの特性について研究を深めながら、きめ細やかな進路相談、支援を行う。	② 進路通信やガイダンス等を通じて適切な情報を提供することができたか。生徒が目標に向かい行動し、第1志望にそった進路実現を達成できたか。	② 進路に関する様々な情報を進路通信やガイダンスなどで発信できた。面接・作文・小論文指導を組織的・体系的に行うことができた。一般選抜対策は各学年の教科の指導が中心となっている。	② 学校推薦型選抜、総合型選抜での受験の割合が増えており、それに対応できる教員の指導力向上を図る必要がある。一般選抜への対応は早い段階からの指導が必要であり、学年や教科と連携し、生徒の行動につなげていく。	② コロナ禍の中で、様々な戸惑いがある中、必要な情報が生徒に発信され、組織的指導が行われたことは評価できる。「総合型選抜」「学校推薦型選抜」の積極的な情報提供・指導が必要である。	② コロナ禍の影響で、膨大な確認作業と臨機応変な対応を求められた。丁寧な確認作業と必要な情報発信、指導が行えた。4年制大学での合格実績が伸びたことと、進学準備の生徒が例年の半分以下であったことはとても良い成果であった。	② 進学後のミスマッチが起きないように、キャリア学習や探究活動の中で深く考えさせていく。「総合型選抜」「学校推薦型選抜」を指導する教員の指導力向上も必要である。
4	地域等との協働	① 王子自治会や、厚木商業高校と協働して防災教育を推進し、防災体制の確立と改善に努める。 ② P&E厚木東コミュニティスクール等を活用して地域の求める学校の求むる学校像を把握し、学校創りや地域貢献活動等に活かす。	① 厚木商業高校とともに、王子地区自治会と共働し、防災体制を確立する。地域の公民館との交流や連携を深め、生徒が地域に貢献する機会を設ける。 ② 地域の公民館との交流や連携を深め、生徒が地域に貢献することで自己肯定感を高め、自分の生き方に結び付いた学びができる。	① 生徒の防災委員を中心に王子地区防災訓練(避難所開設訓練)に積極的に参加し、避難所開設の体制を整える。 ② 公民館を通じて生徒活動の情報発信を行う。また、自治会等の活動に協力する。	① 地区防災訓練に積極的に参加できたか。避難所開設の体制の構築ができたか。生徒の防災意識が高まったか。 ② 生徒活動の情報発信ができたか。自治会等の活動に協力し、自分の生き方に結び付いた学びができたか。	① コロナ禍で、例年の防災訓練ができず、HR単位で、防災教育を実施した。また、避難所開設訓練についても、コロナ禍で、書面開催となった。 ② コロナ禍で公民館や自治会と連携したボランティア活動は行えなかったが、生徒会新聞を配布し、地域と情報共有を促進した。	① 新型コロナウイルス感染拡大防止を考えると、今年度の対応は妥当ではあるが、来年度に向けて、防災訓練等を行うための準備が必要である。 ② より多くの地域の方へ情報発信できるよう、ICTの利用も検討していく。	① 本年度の活動が制限されたことはやむを得ませんでした。今後は社会情勢をにらみながら「できることから無理なくやっていく」スタンスで実行が必要である。 ② 地域協働は仕方なくやらされるものではなく、生徒自身のキャリアに関する関心を高め、将来の進路選択に役立つものになるよう工夫が必要である。	① 制限がある中、生徒の防災意識を高めるため、創意工夫した教材ができた。 ② 行事や部活動を可能な範囲で実行し、その成果を生徒会新聞に載せて地域の方へ情報発信することができた。	① 創意工夫した教材ではあるが、実際に行動が伴うことを考え、すみやかに、安全に避難できるものにつなげるものにつなげる。 ② コロナ禍でも、地域の方とつながりが持てるよう、ICT活用の幅を広げる。
5	学校管理 学校運営	① 生徒が安全安心、また快適に過ごせるよう教育環境の整備を進める。また、新校再編に向けて、教室や諸設備の活用計画を進める。 ② 時代の要請に応じた教育のICT環境の整備を推進し、業務の効率化を図る。	① 施設・設備の老朽箇所、危険個所の状況を把握し、その改善に努め、安全・安心快適な教育環境を整える。新校準備委員会と連携し、施設設備の活用計画をたてる。 ② 校内のICT環境を整備、充実させ、職員の協働作業による業務の効率化を図る。より質の高い教材を提供し、生徒の主体的な学習への意欲を伸長する。	① 生徒の整美委員と共働し、施設・設備の老朽箇所、危険個所のデータベースを作成し、生徒の意見を取り入れながら最適な教育環境づくりを進める。新校準備委員会に参加し、具体的な教室、施設等の活用を検討する。 ② 職員間で情報の交換を容易にし、優れた教材や実践を共有する。ICTの活用を、授業と家庭学習を結びつける仕組みに役立て、生徒の学習に対するモチベーションを高める。	① データベースを作成し、施設の改善および教育環境の整備ができたか。新校再編に向け、施設設備活用計画ができたか。 ② 教員が安心してGoogle Classroomを活用できる環境が整備されたか。職員間の情報の共有、協働により、業務の効率化が図られたか。また、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を伸ばすことができたか。	① 生徒は備品や施設を大切に使用しており、美化意識を持って、積極的に清掃活動に取り組んでいる。整美委員が校内要修繕箇所を調査し、今後の修繕計画を検討した。また、整美委員が花壇整備を行い、廊下の掲示板クロスの張替えを行った。 ② 全ホームルーム教室にモニターを配置する等、ICT環境の整備、充実により、効果的な授業の展開や職員の勤務時間の短縮等が実現できた。	① 学校施設の老朽化が目立ち、修繕箇所が多い。C棟・外トイレ・弓道場のトイレの悪臭が気になる。教室のPタイルのはがれが多く補修を早急にする必要がある。 ② 生徒、職員が利用するネットワーク環境が一律ではなく、各端末固有のトラブルも発生しており、解決に時間を要する場面がある。また、家庭にWi-Fi環境が整っていない生徒への支援が十分にできていない。	① 老朽化した施設の補修は優先すべき課題である。お金がないならクラウドファンディングで集める等の工夫も検討が必要である。 ② CMSが導入・整備され、よりきめ細やかな情報発信ができる体制が整ったことは評価できる。ICTは活用できて当然であり、その先に進む必要がある。生徒の主体的な学びにICTをどんどん活用してもらい、新しい教育のできる高校作りが必要である。	① 生徒は、備品、施設を大切に使用しており、積極的に清掃活動に取り組んでいる。ただ、校内の老朽化が目立つ。 ② CMSを利用する体制が整った。ICTを活用する環境を、ハード・ソフト両面で整えることができた。また、休校期間中においても生徒の学びを適切に支援する手立てを講じることができた。	① 事務と連絡をとり、優先順位をつけ老朽化した施設設備を修繕する。 ② ICTをより効果的に活用し、生徒の学習習慣を確立させ、内容が定着するよう主体的な学びを支援する。生徒がより高い目標を達成するためにICTを利用する場面を想定し、教員の技能向上を図る。